

R7 (2025) 年 共通テスト本試

【文章Ⅱ】 田中履堂 『学資談』 現代語訳

※一部、振り仮名や返り点も補足しています。

淇園先生（ウ）毎（ウ）謂レ読レ書、
故（皆川）淇園先生がつねづね、書物を読むうえ（で大切だと）仰（ウ）っていたのは、

「^B日読二了数紙、不レ如三日知得数字」。

「日々数ページの文章をただ読み通すよりも、日々数文字の漢字の意味や用法を理解していくほうがよい。

レテテ（ウ）くわいニ（ウ）かヘツテはなはダびん（ウ）セフナリト

此似二迂回一、還レ甚レ便捷一。」

これは遠回りのようで、かえって非常に早道である」と。

よ（ウ）よりテ（ウ）また（ウ）いフ

余因又云、

私がそれにもとづいて、さらに加えて言うのは

「粗二涉万卷一、不レ如精二通一卷一。」

「多くの書物に大ざっぱに目を通す乱読よりも、一冊の書物を隅々まで深く理解する（読み方の）ほうがよい。

レテ（ウ）けふあいニ（ウ）またまことハはくたつナリト

此似二狭隘一、亦レ実博達一。」

これ「（二）一冊の精読（一）」は（一見、視野が）狭くなりそうで、これもまた、実は博識になれる」と。

よ（ウ）ニ（ウ）いヒテ（ウ）クム（ウ）ヨ（ウ）ものヨ（ウ）テ（ウ）シ（ウ）はく（ウ）がく（ウ）ト

世謂二多読一書者一、以為二博学一、

世の中で多くの書物を読む者に対して、博学とみなして、

すなはチ（ウ）きむ（ウ）せんス（ウ）ヨ（ウ）

輒レ欽二羨一之一。

見かける度にいつも敬いあこがれる（風潮がある）。

不レ知二是此多識一、不レ可レ謂レ博。

（しかし）これ「（二）多読する人（一）」は多くの知識があるだけで、博学だとは言えない。

はく（ウ）ハ（ウ）なキ（ウ）ところ（ウ）ズル（ウ）つたつセ（ウ）ノ（ウ）いひニシテ

C 博者莫レ所レ不二通達一之謂、

博学とは、精通・熟達していないことが無いという意味であって、

せい（ウ）つうスルモ（ウ）ニ（ウ）また（ウ）ベシ（ウ）しょうス（ウ）ト（ウ）

精二通一書一、亦レ可レ称二博学一。

一冊の本を詳しく知り尽くす者もまた、博学だと称えることができる。